

継承される北欧デザインの精神

明治神宮絵画館前で開催された「東京デザイナーズウィーク2012」。会場で注目された展示の一つが、シモンズが主催した、北欧デザインの巨匠アルネ・ヤコブセンの孫、トビアス・ヤコブセン氏のデザインワークを紹介する“The Works of Tobias Jacobsen”だ。来日したトビアス・ヤコブセン氏に、デザインの考え方や新作について伺った。

Photo Takayuki Haneta (digni) Text Rie Nakajima

Tobias Jacobsen(トビアス・ヤコブセン)
デンマーク出身のプロダクトデザイナー。北欧デザインの巨匠アルネ・ヤコブセンを祖父に持つ。家具、エレクトロニクス、キッチン用品など幅広い分野で、シンプルさの中に懐かしさを感じさせるデザインを生み出している。

新作リクライニングチェア「Tokyo Rest」とトビアス・ヤコブセン氏。展示では同氏の作品とともに祖父のアルネ・ヤコブセンの作品も展示された。背景の写真はアルネ・ヤコブセン。

シンプルでゆったりとした曲線のラインが印象的なリクライニングチェア。東京デザイナーズウィークで披露されたシモンズのブランド「フィヨルド」の新作「Tokyo Rest」は、Tokyoの「Y」の文字からイメージしたものだという。「インテリアでもカトラリーでも、モノをデザインするときは、いつも彫刻として捉えています。部屋の中でどんな角度から見ても美しく、常に新しい発見のある飽きのこないデザインであってこそ、長く愛用できるモノになるのです。『Tokyo Rest』では、デザインに当たり、東京のさまざまなモノやコトを連想しました。せわしない人や車の流れ、街のネオン、宮崎駿監督の映画、三宅一生氏がデザインするファッション、繊細で美しい食……。そしてたどり着いたのが、情報やモノがあふれる東京で、自分だけの場所を与えてくれる家具。東京の住宅事情でも場所を取らず、体を優しく包み込むフォルムで外界を遮断し、自分と向き合い、穏やかな心を取り戻す時間のパートナーとなり得るチェアです」

目に入る全てのモノや人、風景が、ヤコブセン氏のインスピレーションになる。中でも最も影響を受けているのは、やはり、偉大なる祖父アルネ・ヤコブセンのデザインだ。

「私の仕事の半分は、祖父のデザインを受け継ぐことです。祖父の作品を理解し、祖父が作らなかったモノを作ることで、彼のスピリットを継承していきたい。東京がテーマのチェアも、その一つだと思っています」